

**委託事業実施内容報告書**  
**平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業**  
**【地域日本語教育実践プログラム(B)】**

**内容報告書**

団体名：社会福祉法人 日本国際社会事業団

**1. 事業の概要**

事業名称	群馬県館林市における外国籍住民のための日本語教育及び社会統合促進事業
事業の目的	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・群馬県館林市およびその周辺地域に暮らす外国籍住民が、日常生活に必要な日本語を習得することで、自分および子育てへの自信を深め、地域社会に根付き、自立的な社会生活を営めるようになること。</li> <li>・外国籍住民が地域の中で生活者として受け入れられていると実感できるようになるためにも、地域社会における理解者や支援者を増やしていくこと。</li> <li>・上記2つの相互作用により、外国籍住民のより円滑な社会統合が実現すること。</li> </ul> <p>【対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化的・宗教的背景から既存の日本語教室へのアクセスに困難を抱え、地域の中でとりわけ周縁化されているムスリムの女性(主にロヒンギャの女性)</li> </ul> <p>※諸外国においては、ムスリム女性が言語習得の機会から排除されないよう、女性のための講座が多数設置されており、その必要性と効果は社会全体で認識されているが、日本においては特殊なニーズとして見過ごされがちである。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語学習を継続的に行うことで、学校や行政機関などの場での日本人とのコミュニケーションを円滑なものにし、生活に必要な情報へのアクセスができるようになること。</li> <li>・地域社会との日本語を通じた交流が促進され、地域の中でムスリム女性たちの存在が可視化されること。</li> <li>・母親が習得した日本語能力を活用することにより、積極的に地域社会と関わることで地域住民との相互理解が促進され、外国籍住民と地域住民の両者が安心して生活できるようになること。</li> <li>・日本語教育の機会を通じて、幼い子どもを抱え家庭内に引きこもりがちな女性が安心して外出できる場を創出し、母親たちの精神的な健康を確保すること。</li> <li>・子どもの就学前に母親が日本語を習得することで、就学後の子どもの教育のサポートを家庭内でよりスムーズに行えるようになり、子どもたちの日本社会への統合が促進されること。</li> <li>・外国籍住民の生活や彼らが抱える課題に関心を持ち、積極的に関わり、日本語の学習課題を含めた諸問題の解消に向けてサポートしていける日本人を発掘・育成すること。</li> <li>・女性のための日本語教室の重要性が認知されること。</li> <li>・外国籍住民の社会統合が双方向型の取組として位置づけられ、地域社会に根付いていくこと。</li> </ul>
日本語教育活動に関する地域の実際・課題	<p>本事業を実施する群馬県館林市には、200人を超えるロヒンギャを中心に、数多くのムスリム住民が暮らしている。彼らは、言語や民族、宗教によって緩やかなコミュニティを形成し、相互に支え合いながら生活している。しかし、幼い子どもを抱える女性の大半は十分な日本語能力を持たず、地域社会との接触に困難を抱えている。館林市に暮らすロヒンギャを中心としたムスリム女性ならびに地域社会の抱える課題として、下記をあげることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語習得への意欲があっても、文化的・宗教的背景から、男性と同じ教室での受講が求められる一般的な日本語教室への継続的な参加が難しい。</li> <li>・ロヒンギャの価値観の中では、母親が家の外で「自分のため」だけに時間を費やすことを良しとしない文化があるため、男性(夫)からの理解を得るために、「子どものために学ぶ」「子どもを放っておいて学ぶわけではない」という状況での学びの場をつくる必要がある。</li> <li>・女性の多くは幼い子どもを複数抱えているため、子どもも安心して連れて行くことの出来る環境が整っていないと、教室へ通うことすら困難であり、日本語学習の機会にアクセスできない状況が続いている。</li> <li>・日本で出生する子どもも増加しており、生活していく上で必要な各種手続き、通院、子どもたちの学習のサポート等に際して、両親とりわけ母親が日本語を習得する必要性が顕在化してきている。</li> <li>・母親の日本語が十分ではないために、家族間でのコミュニケーションの断絶が生じ、学校生活をはじめとする社会生活に支障をきたしている家庭もある。</li> <li>・文化的・宗教的背景に加え、日本語が十分ではないため、女性が地域での活動に積極的に参加することが難しく、日本人社会との接触も限定的なものに留まっている。</li> <li>・母親は基本的に専業主婦であるため、社会との接点がきわめて少ない状況に置かれ、社会性の獲得並びに精神的な健康という点にも課題がある。</li> <li>・ボランティアを担う学生等が都市部に比べて不足しているため、人的資源の獲得が容易ではない。既存の資源を有効に活用するために協力できる関係を構築し、必要な研修を実施する必要がある。</li> </ul>
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	<p>日本語学習の機会が全ての住民に提供され、地域社会がその実情に合わせた独自の多文化共生を推進していける基盤を整備するために、下記の取組を実施した。</p> <p>【取組1】幼い子どもを抱えるために外出が叶わなかった母親たちが安心して参加できる女性のための日本語教室の開催。参加者の文化・宗教的背景を考慮したプログラムとし、これまで社会の周縁に置かれてきたムスリム女性の居場所としても機能することを目指した。</p> <p>【取組2】地域住民が参加し、相互の交流および相互の理解が促進されるようなワークショップ等の開催。これまで地域の外国籍住民に対してあまり関心がなかった人でも参加しやすいワークショップとし、新規の関係者の獲得も目指した。</p> <p>【取組3】地域住民に対する活動報告の場として、日本語スピーチ大会を実施する。女性の日本語学習の必要性を理解してもらうと同時に、地域の外国籍住民との交流が生まれることを目指した。</p> <p>【取組4】地域社会の多文化共生に関心を持ち、日本語教室のボランティア等として関わっていくことのできる人材の新規開拓と、既存の協力者・支援者のスキルアップを目指した研修を実施した。</p>
事業の実施期間	平成29年5月～平成30年3月 (11か月間)

## 2. 事業の実施体制

### (1) 運営委員会

#### 【運営委員】

1	星野 真弓	群馬県 生活文化スポーツ部 人権男女・多文化共生課
2	栗原 幸枝	館林市市民部 市民協働課
3	清谷 典子	国際移住機関(IOM)
4	Khadiza Begum	ロヒンギャコミュニティ
5	遠藤 知佐	公益財団法人 兵庫県国際交流協会
6	松尾 慎	東京女子大学
7	矢崎 理恵	社会福祉法人 さぼうと21
8	本堂 晴生	NPO法人 いせさきNPO協議会 社会貢献ネット
9	宮崎 マルコ アントニオ	NPO法人 NO BORDERS
10	石川 美絵子	社会福祉法人 日本国際社会事業団



#### 【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年5月19日 (金) 11:00~13:00	2時間	館林市 中部公民館	運営委員:土橋徹(星野課長代理)、栗原幸枝、清谷典子、Khadiza begum、矢崎理恵、本堂晴生、宮崎マルコアントニオ、石川美絵子 オブザーバー参加:小川隆文(群馬県)、田中洋子(館林市)、関口直弥(館林市) 事務局:近藤花雪(事業担当)、大野結希	1.事業概要の説明 2.運営委員の役割について 3.「女性のための日本語教室」初日を終わっての報告 4.今後の予定 5.意見交換(会場の確保、ボランティア等の確保、ロヒンギャのメディア対応等)
2	平成29年12月4日 (月) 14:30~16:00	1.5時間	館林市 西公民館	運営委員:土橋徹(星野課長代理)、関口直弥(栗原課長代理)、Khadiza begum、遠藤知佐、矢崎理恵、本堂晴生、石川美絵子 オブザーバー参加:小川隆文(群馬県) 事務局:近藤花雪(事業担当)	1.事業の進捗報告(各取組) 2.今後の予定 3.意見交換
3	平成30年2月26日 (月) 13:30~15:30	2時間	館林市 中部公民館	運営委員:小川隆文(星野課長代理)、関口直弥(栗原課長代理)、清谷典子、Khadiza begum、遠藤知佐、矢崎理恵、本堂晴生、石川美絵子 事務局:近藤花雪(事業担当)、日下ニコル	1.事業の進捗報告(各取組) 2.今後の予定 3.今年度事業の振り返り(体制整備について含) 4.来年度に向けて 5.各運営委員より報告等

### (2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・群馬県及び館林市:地域における多文化共生に関わる知見の共有、群馬県内及び館林市内の現状についての知識の共有、地域住民への広報、地域関係者との連絡調整、地域資源の活用</li> <li>・国際交流協会:地域に暮らす外国人住民の日本語学習をサポートしてきた経験の共有、支援者としての参画</li> <li>・ロヒンギャコミュニティ</li> <li>・社会福祉法人 さぼうと21:外国にルーツを持つ人々の定住支援に関する豊富な知識と実績から各取組への助言</li> <li>・NPO法人 NO BORDERS:地域の多文化共生を担う団体としての知見の共有、当事者としての参画</li> <li>・国際移住機構:人の移動全般並びに移住者の社会統合に関する知見の提供</li> <li>・国連難民高等弁務官事務所:ロヒンギャ難民についての知識提供</li> </ul>
------	--

### (3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーター (事業全体):館林市のロヒンギャコミュニティの支援に継続的に取り組んできた日本国際社会事業団が、地域住民としてのロヒンギャ女性が抱える課題やニーズを把握している立場として、事業全体をコーディネートした。群馬県内外の関係者・諸団体との関係構築を強化し、地域の自立を見越した体制整備への橋渡しを目指した。</li> <li>(日本語教育関連):地域日本語教育やボランティアとの協働を専門とし、かつ、群馬県内の事情に精通している専門家に依頼した。上記2名がそれぞれの専門性を活かしながら、本事業にとって最も効果的な取組内容を検討、実施した。</li> <li>・指導者:可能な限り近隣地域から経験や実績のある指導者を招いた。参加者の日本語習得を促進することで、本事業の成果や意義を当事者並びに地域社会が実感できるようにすることを目指した。</li> <li>・ボランティア、保育者:参加者と日本社会との媒介者としても機能することを目指した。</li> <li>・事業担当者:コーディネーター、指導者、関係諸団体との連絡を密に取ると同時に、現場のニーズを汲み取り、事業の円滑な実施を図った。</li> <li>・日本語教育小委員会:取組1の中に設置し、カリキュラムや指導方法等についてより具体的に検討した。(構成メンバー:コーディネーター、指導者、アドバイザー)</li> </ul>
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞										
取組1	取組の名称	女性のための日本語教室								
	取組の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての母親が一定レベル以上の日本語を習得し、地域住民としての社会生活や子育てをより円滑に営めるようになること</li> <li>習得した日本語を活用し、地域社会に入り込んでいけるような人的ネットワークを構築すること</li> <li>ロヒンギャコミュニティと日本社会との相互理解が促進すること</li> <li>女性のための日本語教室が、特殊ニーズによるものではなく、地域の多文化共生及び外国籍住民の社会統合に係る取組の一環として位置付けられるようになること</li> </ul>								
	取組の内容	<p>＜使用教材＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主教材『はじめまして にほん』</li> <li>文字学習用教材『社会参加のための日本語通信講座』『かんじだいすき』</li> <li>副教材</li> </ul> <p>—担当教師およびコーディネーター作成のハンドアウト</p> <p>—「災害のときの便利ノート」「外国人住民のための子育てチャート」「外国人保護者、児童のための小学校で楽しく安全に学ぶための10のポイント」神奈川国際交流財団<a href="http://www.kifjp.org/shuppan/multi">http://www.kifjp.org/shuppan/multi</a>より</p> <p>—『かけはし～生活・交流・学習のための素材～』前橋市国際交流協会</p> <p>＜進め方＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本語学習経験の有無や口頭能力に合わせて、2クラスに分けた(Aクラス:ゼロ初級、Bクラス:口頭能力あり)。</li> <li>取組は全40週のうち、第1週目にオリエンテーションウィークを設け、残り39週間を3期に分けた。授業は、原則月曜日と金曜日の2回(1回は2時間)。ただし、ラマダンの時期は月曜日の1回のみとした。</li> <li>授業では、「はじめましてにほん」等の教材を基に生活で必要な語彙や表現を学ぶと同時に、講師や他の受講者との地域情報共有により、日常生活で実際に行動ができることへとつながることを重視した。また、文字学習用教材を活用して平仮名からカタカナへと進め、漢字学習も取り入れた。</li> </ul> <p>＜社会参加をより促進するために＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表活動やビザンターセッションを設けることにより、教室参加者だけでなく、コミュニティーの人たちの前で自己表現ができる機会を取り入れた。</li> <li>市内の防災やスピーチ大会の日時を考慮して授業日程を組み、関連する行事への参加促進を図るようになった。</li> </ul>								
	空白地域を含む場合、空白地域での活動	<input type="checkbox"/>								
	取組による体制整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室活動を通して日本語を使うことや地域社会とのつながりを持つことに自信を深めた女性が、今後、コミュニティ内での支援者として活躍し、将来的な自立へと繋がることと期待される。</li> <li>日本語教室のニーズの高さを関係者間で共有し、理解者・協力者の開拓について意見交換する中で、教室ボランティアの紹介に協力いただくなど、本教室の運営を通して、地域(館林市、群馬県)との関係性を深めることができた。</li> <li>将来的な自立に向けて、参加者の文化的背景も考慮しながら、地域の関係者や地域住民をいかに教室内に取り込んでいくのかは、来年度の課題である。</li> </ul>								
	取組による日本語能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講者が日常生活で不可欠な生活場面を取り上げることにより、学んだことを活かして行動ができ、社会への参加が深まることが期待できる。同時に、それらの行動は日本語の実際使用場面であるため、日本語能力の向上にもつながった。</li> <li>口頭表現と併せて、文字学習を取り入れていることにより、「読む・書く」力も高めることができた。</li> <li>教室活動を通して、日本語学習を楽しんだり日本語使用に自信を持つことで情意フィルターが下がり、日本語習得上プラスの影響を得られることが期待できる。</li> </ul>								
	参加対象者	館林市及び近隣地域に暮らすスリム女性	参加者数 (内 外国人数)	29人 ( 29人 )						
	広報及び募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>ISSJと繋がりのあるロヒンギャの女性を通して、コミュニティ内に周知</li> <li>参加者の家族や友人による口コミ</li> </ul>								
	開催時間数	総時間 122 時間(×2クラス)								
	主な連携・協働先	館林市、公民館、さぼうと21								
参加者の出身・国別内訳(人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	ミャンマー(21人)、バングラディッシュ(4人)、パキスタン(1人)、タイ(1人)、無国籍(1人)	
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名		
※	平成29年5月7日 (月) 10:30～12:00	2	西公民館	17	レベルチェック	受講希望者との個人面談 ・レベルチェック ・滞在歴 ・日本語学習歴、教育歴 ・日本語を学ぶ目的 ・目標 等の聞き取り	浅見恵子 富田京子 遠藤知佐	石川 美絵子 近藤 花雪		
1	平成29年5月15日 (月) 10:00～12:00	2	多々良公民館	20	A:オリエンテーション B:オリエンテーション、自己紹介、ネームプレート作成、教室のことば、挨拶、ひらがな(清音)読み	A: ・コースガイダンス(授業、会場、欠席時連絡方法等)・名前カード作成・教室のことば、あいさつ・自己紹介活動(初めの挨拶、名前、終わりの挨拶)・50音の音導入・目標シート記入 B: ・自己紹介をする。・「(名前)です。(国)から来ました。どうぞよろしくお願ひします」で練習 ・他者に名前を尋ねる/紹介する・ひらがな清音の練習	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—		

2	平成29年5月19日 (金) 13:30～15:30	2	多々良公民館	15	A:「自己紹介」①、「文字」ひらがな B:自己紹介②住所、家族、趣味について話す、ひらがな(清音)読み・書き	A: ・前回の復習(あいさつ、簡単な自己紹介)・かな(あ行、か行、が行)・自己紹介「国名・地名」から来ました。」「どこから来ましたか。」「時のことば(今年、去年)／～年～月に来ました。」「いつ日本へ来ましたか。」「数字1～12、2000(来日時期を話す練習のため)」 B: ・自己紹介②として基本的なものに加え、住んでいるところ、家族、趣味について付け足した。・「趣味はNです。」「趣味はVすることです。」ともに練習した。ワークシート②-2と絵カードを使用し活発に練習できた。・【ひらがな】では清音の読みを復習してから濁点、半濁点を確認。表記は宿題にしてあったのでチェックして、気になる点、間違いやすい文字について説明を加えた。聞いて書くをプリントで練習。	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—
3	平成29年5月22日 (月) 10:00～12:00	2	多々良公民館	20	A:「自己紹介」②、「文字」ひらがな B:自己紹介③好きな食べ物、色について話す、ひらがな(長音・促音・拗音)読み・書き	A: ・前回の復習(かな、「どこから来ましたか」いつ日本へ来ましたか)・かな(さ・ざ行、た・だ行)・自己紹介「自分の家族の呼称(父母、夫／主人、子供／娘・息子、兄弟／兄弟姉妹)」／「誰と日本へ来ましたか。」 B: ・自己紹介は前回欠席者が多かったので復習してから新たに好きな食べ物、色について話し、情報を共有した。住んでいるところ、家族、趣味について付け足した。・「何」、「どんな」を導入し、聞きあう練習をおこなった。・【ひらがな】では特殊音の読みを拍を意識しながら練習。・【ひらがな】清音テスト	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—
4	平成29年5月26日 (金) 13:30～15:30	2	多々良公民館	16	A:「自己紹介」③、「文字」ひらがな B:自己紹介④自己紹介まとめ・書く、『なまえ』①、ひらがな総復習	A: ・前回の復習(かな、自分の家族の呼称、「だれと来ましたか。」「ひらがな(な・は・ば・ば行)・自己紹介「Nが好きです」／食べ物(野菜、果物、パン、ごはん、肉魚卵)、飲み物の名詞／「Nが好きですか。・・・はい／いいえ」 B: ・自己紹介のまとめとして全員発表し、その後ワークシートを使って記入した。・『なまえ』①で語彙を増やし、読む・書くに熱心に取り組んでいた。・ひらがなワークの確認と特殊音を含めFCで練習。	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—
5	平成29年6月5日 (月) 10:00～12:00	2	多々良公民館	18	A:「自己紹介」④、「かぞえよう」①、「文字」ひらがな B:かぞえよう①、数字、ひらがな総復習	A: ・前回の復習(かな、飲食物の語彙、「Nが好きです。」「ひらがな(ま・や行)・自己紹介④色の語彙／「どんな色／食べ物／飲み物／お菓子が好きですか。」「かぞえよう①1～100の数字」 B: ・ひらがなワーク(ユニット13)の助詞に注目して成文をした。・「数字」は1～10000の数字の読み、書きを練習。	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—
6	平成29年6月12日 (月) 10:00～12:00	2	多々良公民館	17	A:「かぞえよう」②、「文字」ひらがな B:かぞえよう②時間・電話番号を聞いたり答えることができる、カタカナ清音	A: ・前回の復習(かな、色の語彙、「どんなNが好きですか、数字1～100)・ひらがな(ら行、わをん)・かぞえよう②100～10000(単位は1000万まで)、電話番号(「私の電話番号は〇〇です。」「電話番号は何番ですか。)」 B: ・時間の言い方(場所、施設、等の時間)を聞き、答える練習。・友人、issj、先生の電話番号の問答と聞き取って記入する練習。・カタカナ清音の導入	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—
7	平成29年6月19日 (月) 10:00～12:00	2	多々良公民館	13	A:「かぞえよう」③、「文字」ひらがな B:かぞえよう③金額についてのやりとりができる、カタカナ清音、濁音・半濁音	A: ・前回の復習(かな、数字、電話番号)・ひらがな(清音、濁音、半濁音復習)・「かぞえよう」③物の値段(いくらですか。～円です。)、時刻(～時、半、分、今何時ですか。)、～時から～時までです。 B: ・時間の言い方、書きを復習後お金について(ユニット2ワーク③-1・2で練習、いくらですかの問答をペア、全体で練習。・プリント(買い物に行く)で物の名前や金額についてを聞き合う練習。(途中までで残りは宿題とした)・カタカナ清音、濁音、半濁音の復習。	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—
8	平成29年6月30日 (金) 13:30～15:30	2	多々良公民館	17	A:「かぞえよう」④、「文字」ひらがな B:かぞえよう④日付と曜日に関するやりとりができる、カタカナ(特殊音)	A: ・ひらがな(促音、長音)・前回の復習(時刻)・かぞえよう④～は～時から～時までです。月～金曜日、一昨日、昨日、今日、明日、明後日、～は何時から何時まで／何曜日ですか。 B: ・お金のやりとりの復習。宿題にしていた買い物のプリントを確認。・日付と曜日に関して「初めまして～」のユニット2ワーク④で導入、カレンダーを使用し練習。友人や家族の誕生日を聞きあうことができた。・カタカナ(特殊音)の導入、説明、FCで確認、コース。	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—

9	平成29年7月3日 (月) 10:00~12:00	2	西公民館	21	A:かぞえよう⑤、文字ひらがなテスト B:かぞえよう⑤まとめ、数字・電話番号・時間・値段のやりとりがスムーズにできる、自分や家族の誕生日を聞いたり言ったりできる、序数詞がわかる	A:・ひらがなテスト ・前回の復習(時刻、曜日、何時/何曜日)・「かぞえよう⑤」カレンダー(月日)、誕生日はいつですか。・ユニット2まとめ(テキストを読みながら)内容復習、既習事項を使って創作会話 B: ・前回の日付の復習から入った。しっかり日ごとの言い方や曜日について覚えてきていた。宿題の復習プリントを声を出してチェックしていった。・序数詞について導入。色々な序数詞があって、興味を持って取り組んでいた。・カタカナの復習は清音と長音を行った。	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—
10	平成29年7月7日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	24	A:「何がある?何がいる?」①、文字「ひらがな拗音」 B:「何がある?何がいる?」①-①場所にある/いるものが説明できる、カタカナ復習	A: ・ひらがな拗音・前回の復習(カレンダー、誕生日、ユニット2宿題答え合わせ)・「何がいる?何がある?」①物の名前、～は～語で何ですか。 B: ・日ごに、助数詞はよく覚えていたが宿題の表記を確認すると「～ばいばい、～びきかひきか」などはまだ定着していない様子。・存在の「場所に～があります/います」は絵カードを使い導入。概ね理解できた。副詞(たくさん、いっぱい、すこし)を入れて練習。また、ぜんぜん～ありません/いけませんも導入した。	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—
11	平成29年7月10日 (月) 10:00~12:00	2	西公民館	25	A:「何がある?何がいる?」②、文字「ひらがな助詞」 B:「何がある?何がいる?」②-②位置を表現することができる、カタカナ復習	A: ・ひらがな助詞・前回の復習(カレンダー、物の名前、これそれあれ、N1のN2、宿題答え合わせ)・「何がある?何がいる?」②場所にある/いるものを表現できる(～がいる/いない、～がある/ない) B: ・前回の存在の言い方を宿題のプリントを使用しながら復習。・位置詞を導入し、絵カードで存在+位置詞で練習・ワーク②・③で確認。・カタカナ総復習	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—
12	平成29年7月14日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	25	A:「何がある?何がいる?」③、文字「ひらがな復習」 B:「何がある?何がいる?」③-③場所にある/いるものについて説明したり質問することができる、カタカナテスト	A: ・ひらがな総復習(語彙の書き取り、新規受講者、再テスト該当者はひらがなテスト)・前回の復習(語彙、「いる/ある」の使い分け、「場所に～がいる/ある」文型の確認。宿題チェック)・「何がある?何がいる?」③(位置の説明、場所に存在するものについての説明、質問) B: ・位置詞を確認後、絵カードを使ってどこに、何が(どこに)ある/いるの練習。まだ時々、混乱する人もいるが概ねよくできていた。・ワーク③で口答練習後、記入。ワーク④のQA練習は途中までで時間になってしまった。次回継続。 ・カタカナテスト:3名以外は大変よく覚えていた。	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—
13	平成29年7月21日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	25	A:何がある?何がいる?④、カタカナ(ア、カ、ガ行) B:「何がある?何がいる?」④-④自分の家や部屋の中などについて説明ができる、ユニット3振り返りシート記入、カタカナテスト、漢字イントロ①	A: ・カタカナ(ア、カ、ガ行)・前回の復習(位置詞を使って存在文を作る。HWチェック。家具家電名詞の復習)・何がある?何がいる?④(自分の家や部屋の中などについて説明できる) B: ・宿題プリントで存在、位置の確認。特に助詞に注目して発表、記入したものの確認をした。意識しないと助詞が欠落してしまう人もいる。 ・前回途中までだったワーク④のQA練習の続きをおこなった。語彙の質問が多くでて、積極的に吸収しようとしていた。・カタカナテスト:40点以下だった3名のうち2名は合格。・漢字の学習に入った。ひらがな、カタカナの由来から入り、イントロプリントの1枚目をおこなった。	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—
14	平成29年7月24日 (月) 10:00~12:00	2	西公民館	25	A:買い物①、カタカナ(サ・ザ・タ・ダ行) B:「買い物」①-①食品・調味料・台所にある物の名前がわかる、漢字イントロ②	A: ・カタカナ(サ・ザ・タ・ダ行)・買い物①(往来動詞、果物/野菜を「買う」、動詞の肯定/否定、過去/非過去形、助詞「へ」を「明日どこへ行きますか。/昨日どこへ行きましたか。何を買います/買いましたか。) B: ・「はじめまして～」ユニット4、ワークシート①、②-1・2を使用して食品、飲み物、調味料、調理道具、食器の名前を練習した。表記についても板書してもらい確認。・漢字イントロプリントの残りをおこなった。	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—
15	平成29年7月28日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	25	A:買い物②、カタカナ(ナ、ハ、バ、パ行) B:「買い物」②-②どこで何をかう/買ったかを話すことができる、漢字イントロ③/「かんじだいすき」L1-1	A: ・カナカナ(ナ、ハ、バ、パ行)・前回の復習(往来動詞、「買う」、動詞の肯定否定、過去非過去、助詞「へ」「を」)・買い物②食品、調味料、台所にあるもの名前。 B: ・「～で～をかう/買った」の練習。時制を入れて単文を作り、会話をおこなった。・シート③、④に習い、レリアア、パンフレットを見ながらペアで練習。どこで何を買い、いくら払いおつりはいくらになるかを計算。レシートの見方も確認した。ユニット2で既に加減乗除は練習してあったのでスムーズに行えた。 ・⑤-1で文章でまとめてあるものを読み、理解。自分で書くことを宿題とした。	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—

16	平成29年8月4日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	23	A: 買い物③、カタカナ(マ、ヤ、ラ行) B: 「買い物」-③レシートの内容を理解することができる自分の買い物行動をまとまりよく話すことができる、「かんじだいすき」L1-2	A: ・カタカナ(マ、ヤ、ラ行)・前回の復習(往來動詞、動詞の過去非過去肯定否定、助詞「へ」「を」、食品・調味料・台所にあるもの名前) ・買い物③(「場所」でNを買います／買いました、「どこで何を買いますか／買いましたか」会話練習、ワークシート④に沿って、小売店の名称:肉屋・魚屋・電気屋・八百屋・薬屋・パン屋・花屋・本屋、「どこで何を買います」短作文、会話発表) B: ・レシートの内容は前回に引き続き確認。それに基づいた作文(ワーク⑤-1の下半分)を宿題にしておいたので発表。表記のチェックをおこなった。作文は例にならないよう考えられているが、書いてあるものはまだ訂正が必要だった。発音も要チェック。・⑤-2でさらに詳しく書いてある文章1を読み、理解。前回の物に何が加えてあるかに注目して読み進めた。3を宿題とした。・漢字は前回の復習をしてから次の「六〜九」を練習。前回同様「とめ」、「はらい」、「はね」を確認。さらに「画数、書き順」に注目させた	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	保育ボランティア
17	平成29年8月7日 (月) 10:00~12:00	2	分福公民館	23	A: 買い物④、カタカナ(ワラン) B: 「買い物」-④お金の記録の仕方がわかる、お金の管理の方法がわかる、「かんじだいすき」L1-3	A: ・カタカナ(ワラン)・前回の復習(「場所」で「何」を買うか／買ったか、宿題短作文FB)・買い物④買い物で使う表現「〜はどこですか」「〜をください」「もっと安い／大きい／小さい／新しいのはありますか」「じゃ、これをください」 B: ・「かけいぼ」をつけていると聞いたところ半数近くは記入しているとのことだった。「かけいぼ1」を見ながら何をどこに書くか確認していった。よく理解していたので1日(1枚)のレシートに沿って記入するよう指示。・さらにワンステップ上げて家計簿の項目別に説明した。いろいろ出てきたが基本の「光熱費・食費・医療費・交通費・日用品・教育費」程度に抑えた。休み中の1週間で記入しておくよう指示。	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	保育ボランティア
18	平成29年8月21日 (月) 10:00~12:00	2	分福公民館	21	A: 期末発表準備①、カタカナテスト B: 期末発表準備-①テーマ説明と準備、「かんじだいすき」L2-1	A: ・カタカナテスト・前回の復習(買い物の時の会話「〜はどこですか／いくらですか」、「もっと安い／新しい／大きい／小さいのはありますか」・買い物小作文発表表(ユニット④ワークシート5-2の宿題FB後、読み上げ練習、発表) ・期末発表準備(これまでに学んだ内容を元に自己紹介を主とした内容をワークシートにまとめる。自宅でもう一度同じ内容を書き上げてくること) B: ・久しぶりなので夏休みの生活について報告してもらってから授業に入った。・DICでカタカナ、日付を書いてもらったが、カタカナは忘れてしまっている人が多く、隣の人と確認しながらになっていた。今後もしっかりと定着を確認していきたい。・発表の準備は発表の趣旨を説明し、内容をまとめてもらった。すでに提出、チェック済の文章に自己紹介を加え最後に今後の抱負を加える流れで進めた。	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	保育スタッフ
19	平成29年8月25日 (金) 13:30~15:30	2	分福公民館	27	A: 期末発表準備②、カタカナ(促音、長音) B: 期末発表準備-②、原稿の仕上げと発表・練習	A: ・カタカナ(促音、長音)・期末発表準備、原稿完成、話し方練習 B: ・前回同様DICで日付、カタカナを復習してから授業に入った。・新たに加えた内容(自己紹介、今後の抱負)のスピーチ原稿を一人ずつチェックし、読み練習の時間をとってから発表練習に進んだ。半数程度は覚えてきていたり、数回下書きを見る程度でよく練習してあった。本番が楽しみである。	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	保育スタッフ
20	平成29年8月28日 (月) 10:00~12:00	2	分福公民館	27	A: 期末発表、期末の振り返りと来期の目標 B: 期末の発表、振り返り(振り返りシートの記入)	A: ・期末発表(スピーチ)・期末の振り返りと来期の目標(シート記入) B: ・出席簿順に全員発表緊張ながらもほとんどが原稿を見ずに発表ができた派だった。・内容を考え、ある程度長い文章を全体の前で発表する機会は大変貴重な経験になったと思う。今後の学習に生かして欲しい。・振り返りシートの内容は次回の面談で生かしていきたい。	遠藤知佐 浅見恵子 富田京子	保育スタッフ
21	平成29年9月4日 (月) 10:00~12:00	2	分福公民館	25	AB: 第1期期末面談	A、B: ・第1期の振り返りシートに沿って一人ずつ面談を実施	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—
22	平成29年9月8日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	22	A: ユニット5「毎日の生活」①、カタカナ、拗音、特殊音 B: Unit5「毎日の生活」-①生活上の基本的動詞が使えるようになる、漢字L1-②	A: ・ユニット5「毎日の生活」①生活上の基本動詞が使えるようになる。・カタカナ拗音、特殊音 B: ・ワークシート①動詞(1)(2)で動詞を確認後、ワークシート②の動詞と言葉(1)~(3)で文として練習。 ・漢字L1「足・口」	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	保育スタッフ
23	平成29年9月11日 (月) 10:00~12:00	2	分福公民館	23	A: かな、ユニット5「毎日の生活」② B: Unit5「毎日の生活」-②、漢字L1-③	A: ・かな「社会参加のための日本語通信講座」第一号名前・ユニット5「毎日の生活」②何時に何をするか、予定を話すことができる。日常生活について説明することができる B: ・何時に何をするか、予定を話すことができる。・日常生活について説明することができる。	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—

24	平成29年9月15日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	20	A: かな、ユニット5「毎日の生活」③ B: Unit5「毎日の生活」-③、漢字L1-復習L2-①	A: ・かな「社会参加のための日本語通信講座第2号」家の中①・ユニット5「毎日の生活」③何を/どこで等の疑問詞を用いて、生活上の行動についてやり取りできる。 B: ・何を/どこで等の疑問詞を用いて、生活上の行動についてやりとりができる・動詞の活用ができる	Aクラス: 浅見恵子 Bクラス: 富田京子	—
25	平成29年9月22日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	21	A: かな、ユニット5「毎日の生活」④ B: Unit5「毎日の生活」-④、漢字L3-②	A: ・かな「社会参加のための日本語通信講座第3号」家の中②・第2号テスト・ユニット5「毎日の生活」④動詞の活用を使い分けすることができる。過去、現在、将来の行動について簡単な説明ができる。 B: ・自分の一日を詳しく表現できるようにする・漢字: 小テスト(1・2課)	Aクラス: 浅見恵子 Bクラス: 富田京子	保育スタッフ
26	平成29年9月25日 (月) 10:00~12:00	2	分福公民館	21	A: かな、ユニット5「毎日の生活」⑤ B: 毎日の生活-⑤	A: ・社会参加のための日本語通信講座第3号テスト・かなゲーム・ユニット5「毎日の生活」⑤自分の一日を詳しく表現できるようになる。 B: ・自分の一日を詳しく表現ができるようにする ・一日の作文の発表	Aクラス: 浅見恵子 Bクラス: 富田京子	保育スタッフ
27	平成29年10月2日 (月) 10:00~12:00	2	分福公民館	22	A: 合同 B: Unit5「毎日の生活」-④、漢字L3-②	AB: 合同授業、変則的に3部構成 ①Bクラス授業、Aクラスプリント自習 ②Aクラスと合同授業 ③合同で話し合い	富田京子	保育スタッフ
28	平成29年10月6日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	25	A: かな、ユニット6「乗り物」① B: Unit6「のりもの」-①、漢字L3-③	A: ・かな「社会参加のための日本語通信講座第4号」外食・ユニット6「乗り物」①乗り物の名前がわかる。移動方法を話すことができる B: ・乗り物の名前がわかる、移動方法を話すことができる	Aクラス: 浅見恵子 Bクラス: 富田京子	保育スタッフ
29	平成29年10月13日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	22	A: かな、ユニット6「乗り物」② B: Unit6「のりもの」-②、漢字L4-①、「社会参加のための日本語」第3号	A: ・かな「社会参加のための日本語通信講座第5号」町の中・ユニット6「乗り物」②いつ、どこ、なんで等の疑問詞を使って移動について話せる。 B: ・いつ、なんで、どこで等の疑問詞を用いて、移動について話すことができる	Aクラス: 浅見恵子 Bクラス: 富田京子	保育ボランティア
30	平成29年10月16日 (月) 10:00~12:00	2	分福公民館	21	A: かな、ユニット6「乗り物」③ B: Unit6「のりもの」-③、漢字L4-②	A: ・かな「社会参加のための日本語通信講座第5号」町の中後半・ユニット6「乗り物」③どうやって日本、館林に来たか話せる。 B: ・どうやって日本や館林にきたか、話すことができる	Aクラス: 浅見恵子 Bクラス: 富田京子	—
31	平成29年10月20日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	19	A: かな、ユニット6「乗り物」④ B: Unit6「のりもの」-④、漢字L4-③/L5-①	A: ・かな「社会参加のための日本語通信講座第6号」買い物前半・ユニット6「乗り物」④どうやって日本、館林に来たか話せる。→発表・ある一日について、移動手段を含めて説明できる B: ・ある一日について、移動手段を含めて説明できる	Aクラス: 浅見恵子 Bクラス: 富田京子	保育スタッフ
32	平成29年10月27日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	23	A: かな、ユニット7「町へ出かけよう」① B: Unit7「町へ出かけよう」-①、漢字L5-②	A: ・かな「社会参加のための日本語通信講座第6号」買い物後半・ユニット7「町へ出かけよう」①町の中にあるものを話すことができる。その場所で何をするかを言うことができる。 B: ・町の中にあるものを話すことができる ・その場所で何をするかを言うことができる	Aクラス: 浅見恵子 Bクラス: 富田京子	保育スタッフ
33	平成29年11月6日 (月) 10:00~12:00	2	分福公民館	21	A: かな、ユニット7「町へ出かけよう」② B: Unit7「町へ出かけよう」-②、漢字L6-①	A: ・かな「社会参加のための日本語通信講座第7号」学校①前半、第6号テスト ・ユニット7「町へ出かけよう」②「まっすぐ」曲がりますなどの語彙を使って、行き方を話すことができる。 B: ・「まっすぐ」「まがります」などの語彙を使って行き方を話すことができる	Aクラス: 浅見恵子 Bクラス: 富田京子	—
34	平成29年11月10日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	22	A: かな、ユニット7「町へ出かけよう」③ B: Unit7「町へ出かけよう」-③、漢字L6-②	A: ・かな「社会参加のための日本語通信講座第7号」学校①後半・ユニット7「町へ出かけよう」③自分が知っている町について何が説明できる。地図を書いて地域について説明することができる。(地図を描く作業は割愛) B: ・自分が知っている町について何が説明することができる。地図を描いて、地域について説明することができる	Aクラス: 浅見恵子 Bクラス: 富田京子	保育スタッフ

35	平成29年11月13日 (月) 10:00~12:00	2	分福公民館	21	A:かな、ユニット8「健康と病気」① B:Unit9「健康と病気」-①、漢字L6-③	A: ・かな「社会参加のための～第8号」学校②前半 ・ユニット8「健康と病気」健康管理に必要な語彙を理解し、活用することができる。体の部位の言葉がわかる。 B: ・健康管理に必要な語彙を理解し、活用することができる。 ・体の部位のことがわかる	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	保育スタッフ
36	平成29年11月17日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	21	A:かな、ユニット9「健康と病気」② B:Unit9「健康と病気」-②・③途中まで、漢字L5-L6 テスト、曜日の漢字	A: ・かな「社会参加のための～第8号」学校②後半 ・ユニット9「健康と病気」②病気の症状を言うことができる B: ・病気の症状を言うことができる ・診療科を知り、症状に応じた病院を選ぶことができる(途中まで)	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	保育スタッフ
37	平成29年11月20日 (月) 10:00~12:00	2	分福公民館	23	A:漢字、ユニット9「健康と病気」③ B:Unit9「健康と病気」-③・④、漢字L7-①	A: ・漢字イントロダクション①L1-1 ・ユニット9「健康と病気」③診察室でのやり取り、薬の種類や使う時の動詞がわかる。(診察科は次回扱います) B: ・病気の症状を言うことができる ・診療科を知り、症状に応じた病院を選ぶことができる ・診察室での簡単なやり取りをすることができる	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	保育スタッフ
38	平成29年11月24日 (金) 13:30~15:30	2	六郷公民館	21	A:漢字、ユニット9「健康と病気」③ B:Unit9「健康と病気」-⑤、漢字L7-②	A: ・漢字 漢字イントロダクション②L1-2(六～千) ・ユニット9「健康と病気」③診察科を知り、症状に応じた病院を選ぶことができる。 B: ・薬の種類や、使うときの動詞がわかる ・「社会参加のためのプリント」第8号学校② ・unite9振り返り	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	保育ボランティア
39	平成29年11月27日 (月) 10:00~12:00	2	六郷公民館	20	A:漢字、スピーチ準備① B:発表の準備①、漢字L7-③	A: ・漢字L1-3復習、p3.8の問題 ・スピーチ準備(テーマ決め、下書き) B: ・発表の準備として下書き原稿の作成とチェック	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	保育スタッフ
40	平成29年12月1日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	23	A:発表準備2 B:発表準備②、漢字L7復習+「年」	A: ・期末発表準備2(原稿下書き確認、発表練習) B: ・原稿の仕上げと発表練習	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	保育スタッフ
41	平成29年12月4日 (月) 10:00~12:00	2	西公民館和室	20	AB:第2期発表会	AB: ・期末発表会 ・振り返りシート記入(2期振り返り、3期目標)	遠藤知佐 浅見恵子 富田京子	保育スタッフ
42	平成29年12月8日 (月) 10:00~12:00	2	多々良公民館	23	AB:第2期末面談	AB:第2期期末面談	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—
43	平成29年12月11日 (月) 10:00~12:00	2	分福公民館	19	A:漢字2課①、ユニット⑩「地域のコミュニケーション」 B:unite12「地域コミュニケーション」①、漢字L8-①	A: ・漢字2課①漢字の成り立ち、字形判別、読み練習、書き練習(手足口) ・ユニット⑩「地域のコミュニケーション」①引越しのあいさつをする/受けることができる B: ・引越しの挨拶をする/受けることができる ・お世話になる学校の先生に挨拶すること	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—
44	平成29年12月15日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	25	A:漢字2課②、ユニット⑩「地域のコミュニケーション」 B:unite12「地域コミュニケーション」②、漢字L8-②	A: ・漢字2課②読み練習、書き練習(目耳) ・ユニット⑩「地域のコミュニケーション」②お世話になる学校に先生に挨拶することができる、学校の連絡帳を書くことができる、学校に欠席の電話をかけることができる B: ・学校の連絡帳を書くことができる ・学校に欠席の電話をかけることができる	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	保育ボランティア
45	平成29年12月18日 (月) 10:00~12:00	2	分福公民館	22	A:文字、漢字1、2課テスト、3課導入、『かけはし』11課学校 B:漢字8課復習「よみましょう」「かきましよう」 AB:『かけはし』11課「学校」	A: ・文字 漢字1、2課テスト、3課導入(字形の判別、読み方、書き方:上下) ・『かけはし』11課学校 日本の学生や小画工について基本的なことがわかる。わからないことがあった時の相談先を持つ。 B: ・日本の学制や小学校について基本的なことがわかる ・わからないことがあったとき相談先を持つ	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—
46	平成29年12月22日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	20	A:文字、漢字3課②、ユニット10「季節の行事」 B:unite10「季節の行事」、漢字L1~L8復習	A: ・漢字3課②(書き方:左右中、読みましよう、書きましよう) ・ユニット10「季節の行事」年末やお正月にすることがわかる。年賀状を書くことができる。 B: ・年末やお正月にすることがわかる ・年賀状を書くことができる	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	保育ボランティア

47	平成30年1月12日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	18	A:漢字4課①、『かけはし』第10課① B:『かけはし』第10課「郵便局」①、漢字7課・8課テスト	A: ・漢字4課① 漢字の意味、読み ・『かけはし』第10課「郵便局」① 郵便局で何ができるかを知る。国内で手紙や荷物を送ることができる。 B: ・郵便局で何ができるかを知る ・国内で手紙や荷物を送ることができる	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	保育ボランティア
48	平成30年1月15日 (月) 10:00~12:00	2	分福公民館	18	A:『かけはし』第10課「郵便局」、漢字 B:『かけはし』第10課「郵便局」②、漢字9課①	A: ・『かけはし』第10課「郵便局」海外に荷物を送ることができる。 ・漢字第4課書き練習 B: ・海外に荷物を送ることができる ・漢字9課「人・子・男」	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—
49	平成30年1月19日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	19	A:ユニット14「公共マナー」、漢字 B:unit14「公共のマナー」①、漢字L9-②	A: ・ユニット14「公共マナー」公共の場でしてはいけないことを理解する。マーク(禁止)の意味が分かる。 ・漢字3・4課復習、テスト B: ・公共の場でしてはいけないことを理解する。 ・マーク(禁止)の意味がわかる。	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	保育ボランティア
50	平成30年1月22日 (月) 10:00~12:00 (※9:00~10:00)	2	分福公民館	18	A:ユニット14「公共マナー」、漢字5課 B:unit14「公共のマナー」②、漢字L9-③	A: ・ユニット14「公共マナー」ごみを分別することができる、リサイクルのマークがわかる ・漢字5課 字形把握、読み方 B: ・ごみの分別ができる ・リサイクルのマークがわかる ・Unit14振り返りシート記入 ※9:00~10:00 参加者からの申し出により、個別面談(2名)を実施。	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—
51	平成30年1月26日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	22	A:ユニット17「防災」①、漢字5課 B:Unit17「防災」-①、漢字L9-④	A: ・ユニット17「防災」①災害の種類とことばがわかる 避難場所のマークを理解する ・漢字5課 赤青白書き方、書き練習 B: ・災害の種類と言葉がわかる ・避難場所のマークを理解する	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	保育ボランティア
※	平成30年1月29日 (月) 10:00~12:00	2	分福公民館	4	個別面談	参加者申し出による個別面談	富田京子	—
52	平成30年2月5日 (月) 10:00~12:00	2	分福公民館	19	A:ユニット17「防災」②、漢字6課 B:Unit17「防災」-②、漢字L10-①	A: ・ユニット17「防災」②自宅近くの避難場所の確認、非常持ち出し袋の中身、災害の時の便利ノート(自分に関する項目記入) ・漢字導入、読み書き練習(月日雨) B: ・自宅近くの避難場所を報告できる。 ・非常持ち出し袋に必要なものを知る。 ・「災害のときの便利ノート」理解と記入	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—
53	平成30年2月9日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	20	A:ユニット16「自国紹介」①、漢字6課 B:Unit16「自国紹介」①、漢字L10②	A: ・ユニット16「自国紹介」① 自国の生活について紹介することができる。国の料理を紹介することができる。 ・漢字6課(夕方、空、天気) B: ・自国の生活について話すことができる(発表準備①テーマを決め、グループ分けができる) 【文法】・指示「～てください」が理解できる	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	保育ボランティア
54	平成30年2月16日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	15	A:ユニット16「自国紹介」②、漢字5、6課 B:Unit16「自国紹介」②、漢字L10-③	A: ・ユニット16「自国紹介」②国の料理紹介、作り方の説明をしました ・漢字5、6課復習、テスト B: ・自国の生活について話すことができる(発表準備②グループで発表テーマを決め原稿作成に入る)	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	保育ボランティア
55	平成30年2月19日 (月) 10:00~12:00	2	分福公民館	19	A:発表準備①、漢字7課 B:Unit16「自国紹介」③、漢字L10④	A: ・発表準備①テーマを決め、原稿作成 ・漢字7課 読み、意味導入 B: ・自国の生活について話すことができる(発表準備③グループで発表テーマを決め原稿作成に入る)	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	保育ボランティア
56	平成30年2月23日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	20	A:発表準備②、漢字7課 B:発表会準備、漢字L9・10復習	A: ・発表準備② 原稿完成、発表練習 ・漢字7課 書き練習 B: ・発表会準備(書いたものを仕上げる、発表の練習をする)	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—
57	平成30年3月2日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	16	A:漢字7課、ユニット13「身近な人と話す」① B:Unit13「身近な人と話す」①、漢字9課・10課テスト	A: ・漢字7課読み練習、書き練習、1~7課総復習 ・ユニット13「身近な人と話す」① 子どもの友達のお母さんを家に誘うことができる。 B: ・発表の感想 ・ピンターセッションの概要説明とグループ分け	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	保育ボランティア

58	平成30年3月5日 (月) 10:00~12:00	2	分福公民館	17	AB:ユニット13「身近な人と話す」②	AB: ・日本人に質問したいことを考える、司会や進行の言葉を知る	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—
59	平成30年3月9日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	18	AB:ビジターセッション	AB: ・日本語で質問することができる ・聞いたことをメモすることができる	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	保育ボランティア/ビジター
60	平成30年3月12日 (月) 10:00~12:00	2	分福公民館	20	AB:第3期及び今年度の振り返り、修了式	AB: ・振り返りシート記入(ビジターセッション、第3期、今年度) ・修了式(修了証授与、一言スピーチ)	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	石川 美絵子
61	平成30年3月16日 (金) 13:30~15:30	2	多々良公民館	19	AB:修了面談	AB: スピーチの振り返りと1年間学習してきたの個人面談	Aクラス:浅見恵子 Bクラス:富田京子	—

## (1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

### ○取組事例①

#### 【通常の教室活動】

レベルごとに振り分けたAクラス、Bクラスに分かれて教室形式での学習を行った。



### ○取組事例②

#### 【第20回 2017年8月28日/2017年12月4日】末発表会

取組3のスピーチ大会への準備も兼ねて、各期の終わりに発表会を実施した。学びの成果を自身でも感じてもらい、また、自身の言葉で発信することに慣れていってもらうことをその趣旨とした。  
第1期末は、自己紹介を兼ねた1分程度の発表を、両クラスの参加者及び数名の聴衆(関係者のみ)の前で行った。第2期はもう少しオリジナリティを持った内容をそれぞれ3分程度発表した。

### ○取組事例③

#### 【第59回 2018年3月9日】ビジターセッション

「日本人の人たちとちょっとお話がしたい」という参加者の希望を受け、日ごろお世話になっている方々(保育ボランティアの方、運営委員など)をゲストに招いてのビジターセッションを実施した。教室内では熱心に学んでいても、その学びを日常生活の中で活かすにはまだ自信が持てないという参加者や、そもそも日常生活の中で日本語を使う機会があまりないという参加者も少なくない。  
当日は、5名のゲストにお越しいただき、Aクラス・Bクラスをミックスしたグループに約20分ずつ入っていた。参加者は事前にゲストのプロフィールを参考に質問を考えてきており、質疑応答を中心に自由にお話することが出来た。初めは参加者、ゲスト共に緊張した面持ちであったが、ゲストの方々の温かさや参加者の熱心さに、相互に緊張が解け、普段の教室とは一味違う嬉しそうなお話の表情が溢れた。  
ビジターセッションに対する満足度は極めて高く、このような機会がもっとあれば良かったという声が複数聞かれた。

## (2) 目標の達成状況・成果

本取組みは40週間全61回という長期間であったが、登録した29人のうち、個人や家庭事情で参加継続ができなくなった人は4人で、残り25人中18人が75%以上の出席率を維持した。全体として最後まで熱心に学ぶことができたと見える。学習内容に対する理解度も高い。教室開始時点では、ほとんど日本語がわからなかった人も少なくなかったが、年度末に実施した授業アンケートでは、回収できた20人中17人(全体の85%)が「よくわかった」と答えている。残り3人も「だいたいわかった」と回答していることから、自己評価として授業内容を十分理解できたと実感していることがわかる。担当教師からも、授業中だけでなく宿題にも熱心に取り組み、ひらがな・カタカナ・漢字を覚えた他、語彙・表現レベルだけでなく、日本語でやりとりをする力を着実に付けていったことが報告されている。  
その結果、日常生活でほとんど夫任せだったことに関して、徐々にではあるが自分で出来るようになってきたという参加者の声も聞けるようになってきた。年度末に行った個別の聞き取りによれば、社会生活の中で「挨拶ができるようになった」、「ゴミを出す曜日や分別に気を付けるようになった」、「郵便局で郵便の値段が聞けるようになった」、「スーパーで買いたいものの場所を聞くことができるようになった」等の報告がある。また、子育てに関しては、「子供が病気のとき、夫がいなくても一人で連れて行けるようになった」、「子供の宿題を少し見られるようになった」、「学校の連絡帳に子供の欠席連絡を書くことができた」、「学校で絵本の読み聞かせ当番を担当することができた」等が挙げられた。さらには、「旦那さんが、日本語の書類を自分に見せて、読んでほしいと頼むようになった」、「一人で銀行口座を開設することができた」という声も聞かれた。こうした社会や子育てへの参加の深まりは、まさに日本語習得の促進を示すものであり高く評価できるものと考えられる。

教室最終回に行ったアンケートに際しては、母語での記入もよしとしたものの、全員が日本語で記入することを望んだ。時間をかけながら、熱心に記入する姿が見られ、日本語を使用して想いを伝えることへのモチベーションの高さが、この場面からうかがうことができた。

アンケートに記されていた内容で特徴的なものは下記の通りである。

- ・文法と漢字をもっと勉強したいです
- ・教室で勉強したり、日本語で話したり、掃除したりは良かったです。(注:年末の公民館の掃除に7名程が参加した)
- ・来年もこのような教室で勉強したいです。
- ・教室にとってもたのしいです。もっと頑張りたいです。次に日本人と話したいです。
- ・教室のペンキょうはわかりましたから、とても楽しかったです。次はもっと時間を長くしてください。

### (3) 今後の改善点について

当初の目標のうち、「一定レベル以上の日本語を習得し、地域住民としての社会生活や子育てをより円滑に営めるようになること」について、上記のような成果が見られた。次年度に向けては、特に下記について改善し課題解決に取り組んでいきたい。

#### ①日本語でまとめた内容を表現できる力の育成

今年度は、今度の日本語学習の基盤となる文字学習や生活の行動範囲を広げていくために最低限必要となる語彙・表現の学習を中心に据えた。現在では、仮名が定着し基本的な語彙も増えてきたことから、次年度においては、自分で文を組み立てる力や、まとめた内容を日本語で表現できる力を高めていくために、文型学習にも力を入れていきたい。

#### ②社会参加や子育てにより積極的に関わっていけるようになること

(1)で述べたように、社会や子育てへの参加には深まりが見られる。しかし、女性達には「自分たちはまだ日本語が上手じゃないから」という気持ちが依然強く、十分に積極的とまでは言い難い。また、各課の内容面での学習には熱心であっても、それを実際の生活に使ってみようという気持ちがまだ弱い様子も窺われる。そのため、来年度の授業においては、教室内での学習に加えて、実際の生活上の体験に結び付けるところまでを取組に取り入れたい。具体的には、ア)学習内容と関連する場所(例:スーパー、郵便局など)に出向く、イ)学習課ごとの振り返りシートに「生活場面で何をしたか、その時、どうだったか」を書いてもらう、ウ)学習後の各自の体験を報告し合う時間を設ける等の工夫が考えられる。

#### ③教室を人や地域とつなげていくこと

今年度は、保育ボランティアやビジターセッションや発表会のゲストとして地域住民の教室への参加・協力を呼び掛けてきた。また、女性達にも公民館利用者全体による清掃や、地区の防災企画への参加を促した。今後は、そうした機会をさらに充実させ、女性達の人的ネットワークの広がりがや、ムスリムコミュニティと日本社会との相互理解の促進を一層図っていくことが課題である。

**<取組2>**

<b>取組2</b>	取組の名称		地域住民への発信と連携へ向けたワークショップ						
	取組の目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民が同じ地域に暮らす外国籍住民の現状や彼らが抱える課題について理解し、相互理解を深めること</li> <li>・外国籍住民との関わり方や、多文化共生のあり方について考えるきっかけを提供し、地域住民との関係を構築すること</li> <li>・国籍や言語に関わらず等しく学ぶ場を設けることで、災害等の非常時に協力し合える関係を築くこと</li> <li>・本取組を通して、外国籍住民と日本人住民が相互に顔の見える存在となること</li> </ul>						
	取組の内容		<p><b>【背景】</b> 館林市内では、「ロヒンギャの人たちが住んでいる」ということは知られていれも、女性たちの存在は地域住民の中で不可視化されていることがわかった。また、ムスリムの住民に対して、どのように接して良いのかわからず、交流も難しいものと捉えている地域住民も少なくない。一方で、地域における社会統合を促進させていくためには、地域の日本人住民と外国籍住民が顔を合わせ、相互に学び合うことが重要である。 このような状況を受け、ムスリムの女性たちが社会に出てくる機会、その生活を地域住民に知ってもらえる機会として下記2つのワークショップを開催した。</p> <p><b>【外国籍住民のための防災訓練】</b> ・群馬県、館林市との共催で実施 ・災害/防災についての講義、非常食体験、避難所体験を実施 ・ハラル対応の非常食の配布やお祈り場所の設置等、ムスリムの住民が多く暮らす館林市の実情に合わせた内容とした ・「災害時通訳ボランティア養成講座」と同時開催し、一部合同で模擬避難所訓練を行った</p> <p><b>【ワークショップ「ムスリムの暮らして、どんなの？」】</b> ・地域住民を対象とした、ムスリムの生活について当事者が発信するワークショップを開催 ・取組1の日本語教室で学ぶ女性に協力を依頼し、お祈り、ハラル、ラマダン、子どもたちの学校生活などについて自身の言葉で発信した ・女性たちが普段食べている食事を紹介し、参加者と歓談することで、相互の理解を深めた</p>						
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		<p>群馬県並びに館林市との共催により開催できたことは、これまでの関係構築の一つの成果であり、今後、その協力体制を深めていく契機となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練では、地域の多文化の状況が再現されることとなり、外国籍住民の実情を実感として理解することができた</li> <li>・それにより明確となった課題の解消に向けて、関係者が共通の認識を持つことができ、今後の協働に繋がることが期待される</li> <li>・ワークショップでは、「よくわからない」存在であった、地域のムスリム住民について、正しい知識を得、当事者と交流することができた</li> <li>・これらの人的資源やネットワークをうまく活用し、今後、理解者・協力者として地域の多文化共生に関わる人が増えることを期待できる</li> </ul>						
	取組による日本語能力の向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練は全て日本語で行われ、災害時に重要な言葉を学ぶことができた</li> <li>・避難所体験の際には、被災者となった想定で、支援ボランティアの方々と日本語でのやり取りができた。日本語を使うことや初対面の日本人とコミュニケーションが取れることへの自信につながった。</li> <li>・ワークショップでは、女性たちが日本語で参加者に説明することができた。他者に発信するための言葉を身につけることができた。</li> <li>・日本語を使用することに自信を深め、日常生活にもプラスの影響が出てくるのが期待できる。</li> </ul>						
	参加対象者		館林市および周辺地域に暮らす外国籍住民、地域住民全般	参加者数 (内 外国人数)		250人 + α ( 110人 + α )			
	広報及び募集方法		チラシ等による周知、県や市による広報、他取組参加者への案内、他のイベント参加者への呼びかけ など						
	開催時間数		総時間 6.5 時間(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先		群馬県、館林市、ロヒンギャコミュニティ						
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		ミャンマー、バングラディッシュ多数							

**実施内容**

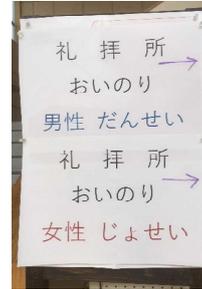
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	2018年2月11日(日) 11:00~15:30	4.5	郷谷公民館	102+ α	外国人住民のための防災訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害/防災についての講義</li> <li>・非常食体験</li> <li>・避難所訓練</li> <li>・振り返り</li> </ul>	小倉 佳丈 石川 美絵子	浅見 恵子 富田 京子
2	2018年3月18日(日) 10:00~12:00	2	六郷公民館	12	多文化共生ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ムスリムについての導入</li> <li>・当事者によるムスリムの生活の紹介(ラマダン、お祈り、ハラル、服装、イスラムの行事、日本での学校生活など)</li> <li>・お食事紹介(6種類の手作りの食事・お菓子を試食)</li> </ul>	石川 美絵子 ロヒンギャ女性 (7名)	近藤 花雪

## (1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

### ○取組事例①

【第1回 2018年2月11日】外国人住民のための防災訓練

群馬県並びに館林市と共催にて「外国人のための防災訓練」を実施した。生活防災術の講義(講師:NPO法人 プラス・アーツ 小倉 佳丈氏)や日本で発生し得る災害について学ぶと共に、模擬避難所を設置し、避難所訓練も行った。避難所訓練は、同日に開催された「災害時通訳ボランティア養成講座」の参加者が支援者に扮し、被災者となった外国籍住民から被災状況等を聞き取るという、極めて実践に近い形で行った。取組1の日本語教室でも、同時期に災害について取り上げ、ポイントとなる言葉等を学んでいたため、講義や避難訓練でもその学びを活かすことができた。避難訓練では、自身や家族のことを支援者に熱心に説明する姿も見られた。本取組に際しては、館林市に多く暮らすムスリム系の住民が被災した場合に起こり得る課題を想定した内容になるよう、準備段階から共催の群馬県、館林市の担当者と打ち合わせを重ねた。ハラルの非常食の準備や、模擬避難所内のお祈りスペースの確保、子どもを連れてこられる環境づくりなどがその成果である。



### ○取組事例②

【第2回 2018年3月18日】多文化共生ワークショップ「ムスリムの暮らして、どんなの？」

地域住民がムスリム女性と出会い、当事者から学ぶ機会としてワークショップを開催した。ISSJの石川より簡単にムスリムについてや、登壇の女性たちの背景について説明をし、導入とした。その後は、ファシリテートに留まり、登壇女性たちの自由な発話により、彼女たちの日常が伝わる場となるよう心掛けた。

登壇者は、取組1の日本語教室に参加している女性6名とその友人1名にお願いした。取組3のスピーチ大会で発表した内容をもとに、いくつかのテーマを取り上げてもらうようお願いしていたが、+αの内容をポスターや写真を使いながら紹介していった(お祈りについて、ラマダンやイスラムの行事について、ハラルについて、日本での暮らしについて、教えを守れなかった時の対処法について、子どもたちの学校生活について等)。登壇の女性たちは、日ごろ語る機会のないムスリムとして日本で生きる自身の姿を、時に冗談を交えながら、生き生きと話して下さった。参加者からの質問にもしっかりと答えることができ、自らの言葉で発信することへの喜びと自信が垣間見られた。ワークショップの後半は、女性たちが作ってきたくださったお料理の説明を聞きながらの大試食大会とした。



## (2) 目標の達成状況・成果

2回のワークショップを通して、外国籍住民(とりわけムスリム女性)が、取組1で習得した日本語を実践の場で使う機会を得るだけでなく、地域住民と直に接し、日本語で発信できるという自信を得られたことは大変意義深いことである。同時に、館林市に暮らすムスリム女性の存在が、地域住民に広く認識されることにも繋がったことは、極めて大きな成果である。

『外国人住民のための防災訓練』では、取組1の参加者とその家族を中心に、想定を上回る数の参加があり、外国籍住民と日本人住民とが共に学ぶことが出来た。取組1を通して、女性が社会に出て来ることに慣れ、それを家族が温かく見守っている状況があるからこそ、多くの参加者を得ることが出来たと考えられる。さらに、ムスリム系住民に配慮したプログラムや会場設営としたことで、「ムスリムであること」が障壁にはならなかったことも、多くの参加があった要因である社会に出て来る場所があるという安心感は、外国籍住民の社会統合を促進していく上で、極めて重要なポイントである。

外国籍の参加者からは、「初めて知った内容が多く、準備できることは、これからしようと思った。」「すぐに水を買っておきます。」「模擬避難所では、日本語でもお話しできました」等の声が聞かれた。その後、取組1の日本語教室で振り返りを行った際には、「ライトを買いました。」「家族にも伝えました。」など、学びを活かそうとする姿勢が見受けられた。取組1とも連動させてことで、両方の学びがより深まったと考えられる。

また、日本人参加者や関係者からは、「こんなにも多くのムスリム女性が館林市に住んでいるとは知らなかった。」「皆さん、思ったよりも普通にお話をされていて、驚いた。」等の感想が聞かれるなど、地域住民としてのムスリム女性の存在を知るきっかけとなっていた。ムスリム女性たちの明るさや、一生懸命に日本語でコミュニケーションを取ろうとする姿には、圧倒されている部分もあったが、これをきっかけに、両者が繋がっていく機会を増やしていくことが重要になると感じた。

『ワークショップ「ムスリムの暮らして、どんなの?」』では、防災訓練で可視化した女性たちの存在を、より身近なものとして捉えてもらう機会を提供することが出来た。参加者からは、「イスラムと聞くと、とても厳しいイメージがあったが、人間らしい宗教と感じた。」「ムスリムの方からお話を聞くのは初めてだったので、とても貴重な経験となった。」「地域の理解が重要だと思う。」「ムスリムが発言する機会がとても大切だと思う。』という声が聞かれ、地域住民への発信という点では、大きな成果を上げることが出来た。

また、登壇者からは、「もっとこんな機会があれば良いのになと思いました。」との感想が出るなど、地域の日本人と繋がりをもちたいという強い気持ちを抱きながらも、日常生活の中ではなかなかきっかけをつかめないという現状を改めて認識することになった。

## (3) 今後の改善点について

『外国人住民のための防災訓練』については、群馬県との共催であったこともあり、館林市内外からの参加があった。外国籍住民については、館林市内が大半を占めたが、日本人参加者(同時開催の『災害時通訳ボランティア養成講座』を含めて)の多くは、館林以外の群馬県下からの参加であった。日本人住民や日常的には接触の無い他の外国籍住民と顔を合わせる機会とはなつたものの、館林市内での繋がりを広げることは必ずしも直結しなかった。同じことが、『ワークショップ「ムスリムの暮らして、どんなの?」』にも当てはまる。近隣地域ではあるものの、館林市内からの参加は少数に留まってしまった。

館林市内で、外国籍住民の暮らしやその支援に関心を持つ層をどのように掘り起こしていくことが出来るのか、また、関心のある層にどのようにアプローチしていくことが出来るのか、広報の仕方を含め、検討していく必要がある。

**<取組3>**

<b>取組3</b>	取組の名称	日本語スピーチ大会								
	取組の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語学習の成果を広く発信し、地域住民に日本語教室の必要性とその意義を理解してもらうこと</li> <li>女性が自身を日本語で表現することに自信を持つこと</li> <li>スピーチ大会を設けることで、日本語学習の意欲を高めること</li> <li>群馬県内に暮らす外国籍住民や彼らの活動について知り、住民間の交流が生まれること</li> </ul>								
	取組の内容	<p>取組1の受講者が、学習のまとめとして、授業中と課題によって原稿等を準備し、日本人や館林に住む外国人を聴衆に迎えて発表した。また、ゲストと日本語を用いた交流も行った。</p> <p>&lt;発表テーマ&gt; 『はじめまして にほん』Unit16「自国紹介」を参考に、受講者自身が興味や関心に応じて決めた —実際のテーマ:イスラムの生活、民族問題、ロヒンギャの現状、自国の食べ物・文化・お祭り、日本の生活</p> <p>&lt;発表方法&gt; ①全体を前にした発表 テーマごとにグループに分かれて、模造紙に書いた内容・写真・イラスト等を見せながら一人3分程度で発表。(1グループのみPPTを使用) ②グループ毎に分かれての補足説明と質疑応答 各グループがポスターセッションのように、模造紙やPPTを見せながら、ゲストの質問に答え、補足説明を行った。</p> <p>&lt;交流タイム&gt; 受講者の有志が用意した自国の料理と、ISSJによるハラールのスナック菓子をつまみながら、ゲストと日本語で歓談した。</p>								
		空白地域を含む場合、空白地域での活								
	<input type="checkbox"/>	取組による体制整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性がスピーチ大会を通して、自らの言葉で発信することに自信を持ち、積極的に地域社会との関わりを持ちたいと思えるようになったことで、彼女らのニーズが社会の中で可視化することが期待できる。</li> <li>ニーズが可視化することで、地域社会の中で協力や支援の輪が拡大することに繋がる。</li> <li>関係者のみならず、地域住民が日本語教室の成果に触れたことで、その必要性を理解し、地域での自立的な活動へと繋げていくための協力者、支援者となることが期待できる。</li> </ul>							
		取組による日本語能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表準備を通して、日頃、各自が強く他者に伝えたいことを表現する力を高めることを意図した。</li> <li>質疑応答の時間を設けることで、双方向のやりとりができることを実感し、日本語を使用することへの自信を深めた。</li> <li>交流の時間を取り入れることにより、発表というフォーマルやなりとりだけでなく、日本語で交流する機会も取り入れた。</li> <li>結果として、日本語で各自が伝えたいと思うことを全体の前で表現でき、かつ、円滑なコミュニケーションができたという2つの体験が、教室受講者の自信となり、地域社会への参加の幅を広げていく契機となることを期待した。</li> </ul>							
		参加対象者	他の取組参加者、地域住民全般、関係者				参加者数 (内 外国人数)	41人 ( 23人)		
		広報及び募集方法	他の取組参加者や関係者への周知							
		開催時間数	総時間 2.5 時間(空白地域 時間)							
		主な連携・協働先	群馬県、館林市、館林市国際交流協会、ロヒンギャコミュニティ							
	参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
		ミャンマー(17人)、バングラディシュ(4人)、パキスタン(1人)								

**実施内容**

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	2018年2月26日(月) 9:30~12:00 (※12:15~13:15)	2.5	六郷公民館	19+オー ディエンス	日本語発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ毎の発表、質疑応答</li> <li>ポスターセッション</li> <li>交流会</li> <li>(※指導者・コーディネーターの振り返り)</li> </ul>	浅見 恵子 富田 京子 遠藤 知佐	石川 美絵子 近藤 花雪

## (1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

【2018年2月26日】

取組1の1年間の成果発表の場として、スピーチ大会を開催した。

取組1の授業の中で、発表したいテーマを考え、原稿を準備した。テーマごとにグループを作り、発表方法(パネル、写真、スライドなど)を相談して臨んだ。当日は、取組1参加者の他に、友人等も連れて来ており、大変賑やかだった。日本人の観客も、運営委員会メンバーを中心に、他取組の参加者やボランティアの方等20名強(スタッフも含む)おり、会場は満員状態であった。

そのような中で、まずは全体を前にした発表を行った。一人3分～5分程度(1グループ10分程度)で、しっかりと自信を持って発表することが出来た。原稿を見ても良いとしていたが、皆覚えてきていた。全体発表の際には、観客からの質問は無しとし、全グループの発表が終わってから、ポスターセッション形式による補足説明と質疑応答の時間を設けた。発表者は、初めての経験に緊張しながらも、嬉しそうに質問に答えていた。その後、数人がボランティアに持参してくれた手作りのお菓子と、ISSJが用意したハラルの市販のお菓子を紹介し、交流タイムとした。観客からは、ハラルについての質問もあり、興味深そうに口にしていた。



## (2) 目標の達成状況・成果

### <受講者について>

受講者には、年度当初から最後にスピーチ大会があることを伝えてあり、その前段階として、期が終わるごとに1回ずつ、計2回の日本語によるミニ発表会を実施してきた。それらを通して、まず1回目では発表とはどのようなものかを体験し、2回目では聞き手を意識して発表するように変化していた。そして、他者の発表の仕方や内容、日本語の発音や滑らかさ等に刺激を受けており、本取組みのスピーチ大会では、皆、さらに頑張りたいという気持ちが強く、日本語学習意欲の維持・向上に大きく役立ったと言える。

また、今年度の日本語学習のまとめとして、受講者がスピーチの準備に主体的に取り組んでいたことも評価に値する。具体的には、各自が発表で本当に伝えたいことは何かをよく考えてテーマを検討できたことや、グループで発表することを教師に提案し、教室外でグループメンバーと協力し合って発表準備を進められたことなどが挙げられる。

なお、当日は、ア)全体を前にした発表、イ)グループ毎に分かれてのポスターセッション形式による補足説明と質疑応答、ウ)交流タイム、という3つの異なるスタイルによる日本語表現機会を設けた。いずれにおいても、各自が、その人らしい日本語でのコミュニケーションをすることができており、自身が伝えたいと思うことを日本語で表現することへの自信につながったものと思われる。そのことは、後日、館林市国際交流協会によって開かれた日本語発表会に受講者のうち3人が参加希望を出して発表した他、当日がコミュニティーの集まりと重なったため発表者として出られず残念だという声が複数聞こえたことから窺える。

### <ホストコミュニティーとの相互理解・交流について>

本取組みには、コミュニティーの友人3人の他、県や市の職員、館林市の市民や国際交流協会の会員など19人のゲストが来場し、女性達の発表を聞いた。その際、各発表者にやさしい日本語で短いコメントを書いてもらった。そこには、各国の食や習慣やイスラムの文化が理解できたというコメントに加え、日本にたどり着いた経緯を知り、「大変なことを乗り越えて、日本で頑張っていることがよくわかりました」というように、女性達の背景を理解し、頑張りに共感するコメントが多かった。また、「皆さんが日本語を一生懸命頑張って覚えてすごかったです」というように、限られた期間での学習にも関わらず、よく練習して発表に臨んだ姿勢に感嘆するコメントも多く見られた。

加えて、続いての質疑応答や交流タイムでは、直接コミュニケーションをしたことで、心理的な距離が近くなった様子が窺われた。

地域住民と女性達は、これまでほとんど交流をする機会を持つことがなかった。しかし、本取組みによって、女性達の文化や背景、日本での生活や日本語学習に対する真摯さを知ったこと、さらには、実際に言葉を交わしてやりとりをしたことは、日本語教室の意義や女性達に対する理解が促進されるうえで貴重な一歩になったと考える。

## (3) 今後の改善点について

今回の取組では、女性達が日本人との交流にまだあまり慣れていないことを考慮して、観客は限られた範囲への声掛けに留まった。そのため、今後は徐々に聴衆を広げ、地域に発信できる場にしていきたい。今回の発表者は取組1の参加者に限られたが、ホストコミュニティーの住民が、群馬県内に暮らす外国籍住民の存在やその活動を知ることができるような、もう少し包括的な取り組みへと発展させていくことが出来ればより良いのではないかと考える。

また、開催場所も、発表者の心理的負担を考慮して、公民館の一室としたが、今年度の取り組みを通して発表の場に慣れたことで、もう少しフォーマルな場(ホール形式の場)にするなど、地域住民も覗きやすいようなイベント感を出しても良いかもしれない。

**<取組4>**

<b>取組3</b>	取組の名称		日本語ボランティアのためのスキルアップ講座						
	取組の目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の外国籍住民との協働や、日本語ボランティアに興味がある地域住民が「生活者としての外国人」を理解し、必要な支援ができるようになるための基本的な力を身に付けられること。</li> <li>・既に活動を始めているボランティアにとっては、スキルアップやブラッシュアップの機会として、外国籍住民の必要性に寄り添った活動の実践に役立てられること。</li> </ul>						
	取組の内容		<p>当該地域には3教室がある。しかし、教室関係者および市の担当者からの聞き取りから、現時点では、各教室とも新しいボランティアを受け入れたいという希望を持っていないこと、また、支援方法をブラッシュアップする必要性も感じられていないことがわかった。そのため、当初の取組目標と地域の必要性を照らし合わせ、下記の2講座を実施した。</p> <p>&lt;教室情報交換会&gt;  <b>【目標としたこと】</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該地域の3教室が、互いの教室の様子を理解し、連携に結び付ける契機にできること</li> <li>・「館林の女性のための教室」が上記連携の一つに加わっていく契機にできること</li> </ul> <b>【取り上げた内容】</b>            ①地域在住外国人住民の統計資料の概観と日本語教室の役割            ②当該地域3教室の情報交換一事前に提出してもらった「教室情報共有シート」を基に            ③日本語支援方法や教室運営について日頃感じている疑問や質問についての意見交換</p> <p>&lt;「やさしい日本語」講座&gt;  <b>【目標】</b>            ボランティアをはじめ、一般の市民や自治体職員が外国人住民とのコミュニケーションに役立てたり、必要な支援を提供できるようにするための基礎的な力として、「やさしい日本語」を使えるようになること  <b>【取り上げた内容】</b>            ①「やさしい日本語」とは何かを理解する            ②「やさしい日本語」で話す／書くときのポイント            ③ワークショップ形式による練習（語彙レベルから文章レベルまで）            ④実践：グループで館林市の広報記事を「やさしい日本語」に書き換えて発表</p>						
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本取組を実施するにあたり、館林市国際交流協会との関係を構築することができた。</li> <li>・今後、地域の日本語教室とどのように連携していけるのか検討を重ね、地域での自立に繋がるよう協力していく契機となった。</li> <li>・既存の日本語ボランティアが交流を持つことで、地域の外国籍住民の（日本語）支援に携わる人々のネットワークが構築され、より良い支援体制が生まれることを期待した。</li> <li>・「やさしい日本語」を学ぶことを通して、外国籍住民がどのような部分に困難を抱えているのかを知り、より良い支援体制を考えるきっかけとなった。</li> <li>・「やさしい日本語」が地域の中に浸透することで、外国籍住民との協働も可能となり、当事者を巻き込んでの体制を構築していけるようになることを期待する。</li> <li>・本取組を通して獲得した人的資源を、協力者・支援者として巻き込み、地域での自立へと繋げる。</li> </ul>						
	取組による日本語能力の向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教室情報交換会」により、これまで関係が薄かった教室間に連携が生まれ、一つの教室では解決できなかった支援方法や教室運営に関わる課題について、協力して解決につなげられるようになることを期待した。結果として、教室に参加する外国人にとっては、日本語能力を高めるための環境がより整うことにつながる。</li> <li>・「やさしい日本語」をボランティアをはじめ、一般の市民や自治体職員が使えるようになることは、外国人にとっては、日常生活や日本語教室の場で必要とする支援を提供してもらいやすくなるだけでなく、インターアクションの機会が増え、日本語能力向上の点からプラスの効果が期待できる。</li> </ul>						
	参加対象者		既存の日本語ボランティア（館林市国際交流協会日本語教室）、地域住民全般	参加者数 （内 外国人数）		24人 （ 1 人）			
	広報及び募集方法		チラシによる周知、関係者への案内、他取組参加者への案内						
	開催時間数		総時間 5.5時間（空白地域 時間）						
	主な連携・協働先		館林市、館林市国際交流協会						
参加者の出身・国別内訳（人数）		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
<b>実施内容</b>									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名	
1	2017年12月3日（日） 13:30～16:30	3	城沼公民館	11	日本語教室情報交換会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館林市国際交流協会が実施している日本語教室3教室（4クラス）のボランティアを対象とした情報・意見交換。</li> <li>・館林市内の外国籍住民の状況把握。</li> <li>・日本語教室の現状と課題の共有。</li> <li>・指導方法や教室運営についての意見交換、アドバイス。</li> </ul>	遠藤 知佐		
2	2018年2月25日（日） 13:30～16:00	2.5	多々良公民館	13	「やさしい日本語」講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「やさしい日本語」とは何か</li> <li>・「やさしい日本語」を活用するには</li> <li>・実践練習</li> <li>・グループワーク</li> </ul>	遠藤 知佐		

## (1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

### ○取組事例①

【第1回 2017年12月3日】日本語教室情報交換会

館林市国際交流協会が実施している日本語教室3教室(4クラス)のボランティアを対象とした情報・意見交換会を実施した。各教室のコアメンバー2名～3名がそれぞれ参加した。館林市の協力により、館林市内の外国籍住民の状況を概観した上で、それぞれの日本語教室の現状と課題を共有した。その後、指導方法や教室運営についての意見交換を行った。参加者は、ボランティアとして長年の経験はあるものの、日本語教育の専門家ではないことから、試行錯誤を繰り返しており、指導方法について講師にアドバイスを求める場面が多く見られた。日本語指導についてのみならず、外国籍住民が日常的に抱えることの多い課題に対して、その対処方法等も共有することが出来た。

### ○取組事例②

【第2回 2018年2月25日】「やさしい日本語」講座

日本語教室ボランティアや自治体職員等を対象とした「やさしい日本語」講座を開催した。「やさしい日本語」が必要とされる背景について知り、いかにして活用可能なのかを実践を通して学んだ。「やさしい日本語」という概念として意識せずとも、日頃のボランティア活動等で既に活用しているものであるという気づきもあり、さらに伝わりやすくするにはどうしたら良いのかを考えるきっかけとなった。最後に、館林市の広報誌の記事を「やさしい日本語」に翻訳するというグループワークを行った。ただ単純に伝わりやすい言葉に置き換えるだけでなく、必要な情報の取捨選択が重要であるということ、外国籍住民と日本人の両者が歩み寄ることで、情報から排除されてしまう人を減らしていくことができるという共通の認識を持つことが出来た。



## (2) 目標の達成状況・成果

### (1) 教室情報交換会

当日は、館林市内3教室のリーダー的なボランティア6名の他、行政担当者2名、ISSJの2名が参加した。そして、3教室が互いの教室の状況を知り抱えている課題を共有し、情報や意見を交換できることを中心にして進めた。会では、3教室共通の課題として挙げられた外国人学習者からの欠席時の連絡方法について、ISSJが「館林の女性のための教室」で活用しているLINEについて紹介したり、外国人が通いやすい自動車教習所等についての情報を提供することができた。また、ボランティアからの報告を聞き、行政担当者が外国人の生活上の課題を知り、職員として役割を担おうとする動きが見られた点でも有益であった。具体的には、外国人参加者からボランティアに病気の時の対応や子供の高校進学について質問が寄せられることについて、市の担当者が、県の取組を調べて報告することを申し出ていた。これまで市内3教室は、お互いの教室についてほとんど知らず、行政担当者も活動の様子を詳しく見聞きする機会はなかったとのことであった。そのため、ボランティアと行政担当者の双方から、「情報交換会をやって良かった」「こうした機会を今後も時々持ちたい」という声が寄せられた。「館林の女性のための教室」の存在を知ってもらえたと同時に、3教室間だけでなく行政との協力関係がより確かになる可能性が感じられる機会となった。

### (2) 「やさしい日本語」講座

館林市内の日本語教室(現・元)ボランティア7名、隣接町住民1名、館林市国際交流協会会長(外国籍)、行政担当者2名、ISSJの2名が参加した。「やさしい日本語」が生まれた背景と重要性を知り、段階を踏みながら普段の日本語を「やさしい日本語」に翻訳する練習をし、最後にグループになって館林市広報誌の「予防接種・子育て情報配信サービス」の記事を「やさしい日本語」版で作成することを体験した。「やさしい日本語」においては、情報の受け手となる外国人の理解や必要性に合わせて、情報の選択・提示方法をはじめ、より伝わりやすい語彙や表現を探究することが欠かせない。本講座でも参加者は、広報記事の「やさしい日本語」版の作成過程および発表、そこに至る基本的な練習の中でも、唯一の解答を求めるのではなく、他者の考えや作例から多くを学んでいた様子が覗えた。実施したアンケートでは、全員が「やさしい日本語についてよくわかった」「今後、やさしい日本語を活用できると思う」と回答したことから、今後、それぞれの仕事や生活・交流、ボランティア活動等で活用してもらえることが期待できる。

## (3) 今後の改善点について

教室情報交換会および「やさしい日本語」講座については、上述のようにそれぞれの目標に対する成果が確認でき、地域住民が「生活者としての外国人」を理解し、必要な支援ができるようになるための力を高めることに貢献できたと考える。しかしながら、各教室での活動や学習支援方法については具体的な研修や情報提供をすることができなかった。原因としては、①各教室は20年前後の実績を持ち、ボランティアリーダーには教室開設当初からのベテランが多いこと、②積極的に新しいボランティアの参加を求めていること、③現状維持の意向が強いことが挙げられる。反面、新しい支援用の素材や方法に関心を持ったり、外国人参加者の減少に対する対策を考えたいというボランティアの声も一部から聞かれた。今年度は、本取組みの実施の他、事前準備としてボランティア教室を訪問したり、ボランティアや協会員に取組1・3にゲストとして参加して頂いたこと等により、徐々に市内3教室に関わる方達との人間関係ができつつある段階にある。今後はさらに信頼関係を深め、3教室に参加する外国人の生活に一層生きる支援が可能になるための講座や情報を提供できるようになることを課題としたい。同時に、各教室と本事業が互いに必要な支援を提供し合えるための関係性構築にも引き続き取り組んでいきたい。

## 4. 事業に対する評価について

### (1) 事業の目的・目標

#### 【目的】

- ・群馬県館林市およびその周辺地域に暮らす外国籍住民が、日常生活に必要な日本語を習得することで、自分および子育てへの自信を深め、地域社会に根付き、自立的な社会生活を営めるようになること。
- ・外国籍住民が地域の中で生活者として受け入れられていると実感できるようになるためにも、地域社会における理解者や支援者を増やしていくこと。
- ・上記2つの相互作用により、外国籍住民のより円滑な社会統合が実現すること。

#### 【対象】

- ・文化的・宗教的背景から既存の日本語教室へのアクセスに困難を抱え、地域の中でとりわけ周縁化されているムスリムの女性(主にロヒンギャの女性)
- ※諸外国においては、ムスリム女性が言語習得の機会から排除されないよう、女性のための講座が多数設置されており、その必要性和効果は社会全体で認識されているが、日本においては特殊なニーズとして見過ごされがちである。

#### 【目標】

- ・日本語学習を継続的に行うことで、学校や行政機関などの場での日本人とのコミュニケーションを円滑なものにし、生活に必要な情報へのアクセスができるようになること。
- ・地域社会との日本語を通じた交流が促進され、地域の中でムスリム女性たちの存在が可視化されること。
- ・母親が習得した日本語能力を活用することにより、積極的に地域社会と関わることで地域住民との相互理解が促進され、外国籍住民と地域住民の両者が安心して生活できるようになること。
- ・日本語教育の機会を通じて、幼い子どもを抱え家庭内に引きこもりがちな女性が安心して外出できる場を創出し、母親たちの精神的な健康を確保すること。
- ・子どもの就学前に母親が日本語を習得することで、就学後の子どもの教育のサポートを家庭内でよりスムーズに行えるようになり、子どもたちの日本社会への統合が促進されること。
- ・外国籍住民の生活や彼らが抱える課題に関心を持ち、積極的に関わり、日本語の学習課題を含めた諸問題の解消に向けてサポートしている日本人を発掘・育成すること。
- ・女性のための日本語教室の重要性が認知されること。
- ・外国籍住民の社会統合が双方向型の取組として位置づけられ、地域社会に根付いていくこと。

### (2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

- ・本事業の目的である、「地域に暮らす外国籍住民が、日常生活に必要な日本語を習得し、自分および子育てへの自信を深める」という点については、概ね達成することが出来た。外国籍住民(ムスリム女性)の自己認識としては、「まだまだ足りない」というのが実情ではあるが、本事業の実施前後では、彼女たちの表情には大きな違いがみられた。日本語教室で使用している公民館の館長の「女性たちの表情が徐々に明るくなってきた」という言葉がそれを象徴している。ムスリム女性が安心して出てこられる場となったことで、日本社会と外国籍住民コミュニティを繋ぐ役割を果たすことが出来ている。日本語能力の向上については、3. 各取組の報告を参照されたい。
- ・一方で、「地域社会における理解者や支援者を増やしていくこと」に関しては、成果を上げた部分と課題として残っている部分が共存している。群馬県や館林市との繋がりを深め、各取組において協力を得られたことは大きな成果である。「女性のための日本語教室」のニーズの高さと参加者のモチベーションの高さが行政レベルでも認識されたことは、今後につながる成果であると言える。しかしながら、参加者の背景等も考慮すると、本事業について幅広く周知することが難しく、地域住民に浸透させることが出来なかった。地域において自立した活動としていくためには、地域住民の理解と協力が不可欠であるものの、ムスリム女性の存在を可視化させ、漠然とした関心を持ってもらうところまでに留まっている。
- ・また、外国籍住民を地域社会に繋いでいくためには、外国籍住民のニーズを正確にとらえた上で、支援やサービスを提供する必要がある。本事業においては、事業の組み立て段階から当事者との話し合いを繰り返してきたこと、それによって得られた知見を関係者間で共有してきたことで、
- ・運営委員からは、下記のような評価が出された。  
「ロヒンギャの女性を対象に日本語教育を実施されることで、中々アウトリーチしにくい専業主婦層かつ母親層が生活者として、地域や学校、また、将来的には会社など(就業を通して)と関わる可能性が広がり、有意義な事業だと思いました。」  
「主催団体が地域に根付く団体ではないので、地域の中での事業実施で難しさを感じました。ただ、事業初年度として考えると大きな成果をおさめたと思っています。」

### (3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

- ・群馬県ならびに館林市の担当者との関係を構築できたことで、取組2の防災訓練の共催へと繋がった。これにより、より大規模かつ多様な対象者に向けた取組とすることができた。この取組を通して、館林市におけるムスリム女性の多さに気がつき、ムスリム女性を対象とした他の取組への関心を寄せるきっかけとなった地域住民が複数いたことは一つの成果であると言える。
- ・館林市の担当者と密に連絡を取り合うことで、館林における外国籍住民の状況を知り、情報を共有することが出来た。さらに、館林市国際交流協会が実施している既存の地域日本語教室とも繋がった。地域における理解者や協力者を獲得していく上で、大きな一歩となった。

### (4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

- ・取組1の日本語教室は、これまでにISSJと繋がりのあった女性を介してコミュニティ内に周知した。ISSJとの繋がりがなかった参加者については、教室開始後に親族や知人を連れてくることも多く、予想以上の参加希望が寄せられた。コミュニティ内における情報拡散の幅が広がったことは将来的にポジティブな影響であるが、同時に、バラツキなく情報を提供していくことの難しさも感じさせられた。今後は、より多くのコミュニティメンバーに情報を提供することで、コミュニティ全体で情報共有がなされるように工夫していく必要がある。
- ・他の取組に関しては、館林市や群馬県を通しての広報をお願いした。また、取組1で利用している公民館等にチラシを設置してもらうことで、地域住民への周知を目指した。ウェブでの広報やチラシ配布による周知よりも、関係者や取組参加者からの声掛け(口コミ)による参加が多かったため、地域に根差した広報活動をしていくことが重要であると考えられる。一方で、顔ぶれが固定化してしまうことも多く、地域住民に関心を寄せてもらうためにどのようなアプローチが有効なのか、今後改めて検討する必要がある。
- ・取組2、3については、事業成果の地域への発信の場としても機能するように組み立てた。取組1で学んだ日本語を駆使して、外国籍住民が自らの言葉で自信を持って発信することができたことは、大きな成果と言える。地域住民への発信については、外国籍住民のモチベーションも極めて高いことがわかったため、今後、そのような機会を増やしていきたいと考えている。

(5) 改善点、今後の課題について

・館林市近辺に暮らすムスリム女性の日本語学習に対するニーズの高さと、初期介入の重要性が明らかとなったが、現時点ではその全てを実現するだけのキャパシティがないことが露見した。地域資源を開拓・活用し、より広範なニーズに対応できる体制整備を行う必要がある。既存の地域資源とムスリム女性のニーズをいかに架橋していくのが、今後の課題である。

・ムスリムコミュニティと地域住民の両者と関係を構築していく中で、日常生活における地域住民と外国籍住民(とりわけムスリム女性)との接触の乏しさが浮き彫りとなった。地域住民からは、「こんなにも多くのムスリム女性が暮らしているとは知らなかった」という声が複数回寄せられたほどである。来年度以降、日本語教室内に地域住民を取り込んでいくことや、ピジターセッション等を通して、ムスリム女性が日本人住民との交流に慣れ、自然と地域の中に溶け込んでいけるよう工夫していきたい。そのためには、ムスリム女性が日本の社会生活について知る機会を持ち、人と関わることを通して社会性を獲得していくことも課題としてあげられる。

・一方で、社会統合を促進していくためには、地域社会が外国籍住民の置かれた状況を正しく理解し、地域の中に溶け込みたいと願う外国籍住民を受け入れていく姿勢を示すことも重要である。したがって、地域住民を本事業に出来るだけ多く巻き込んでいくことも課題である。地域柄、ボランティアとしての参加を促しやすい学生が少なく、また、多文化共生に関心を持つ住民も多いとは言えないのが現状である中で、どのようにアプローチし、理解者、そして協力者を獲得していくことが可能かを検討していかなければならない。

・本取組において不可欠である保育に関して、ボランティアのみで賄うことには限界がある。今年度は予算的制約もあり、ボランティアベースでお願いをしたが、安定性や継続性という点で課題が残った。人員確保も含め、早急に改善せねばならない点である。また、当事者自身が保育者として運営に携われるようになることが望ましいが、その保育観という点から現時点では難しいのが実情である。日本人の母親がどのように子どもを見ているのか、また公共の場でどのような振る舞いが望ましいのかを知る機会を設けていくことも必要と考えられる。

・さらに、事業の継続性という観点から、当事者が支援者として関与していくことが必要になってくる。どのような関わり方が可能なのか、その実現可能性も含めて検討していかなければならない。

・取組1に関しては、当初想定していたよりも多くの女性が参加し、継続的に学ぶことが出来た。しかしながら、教室開始後(とりわけ、ラマダン期が終わってから)に参加者からの口コミで情報が広がり、参加希望者が突然教室を訪問するということが続いた。参加を希望する女性全てに開かれた教室であることが望ましいものの、会場のキャパシティといった物理的な面でも、教育効果の面でも限界があるのが現状である。今年度については、ウェイティングリストを作成することで解決を図った。ニーズの高さが顕著に表れたという点では一つの成果とも取れるが、教室の混乱を避けるためには、教室開始時点で定員を定め、参加希望の場合はどのような形でアクセスするのかなど、ルール作りをしておく必要があった。

(6) その他参考資料